

待機児童等の状況（地域別）

- 待機児童については、全国の市区町村（1,741）のうち、8割超の市区町村（1,429）においてゼロ。
- 待機児童は都市部（*）に多く見られる状況にあり、全体の約6割（待機児童数3,516人）を占めている。
（*都市部：首都圏（埼玉・千葉・東京・神奈川）、近畿圏（京都・大阪・兵庫）の7都府県（指定都市・中核市含む）とその他指定都市・中核市）
- 待機児童数の減少数が大きい自治体の傾向をみると、自治体の保育の受け皿整備の取組みが待機児童の改善に表れている。

<待機児童数に増減のあった地方自治体>

1. 待機児童数の減少数が大きい上位10地方自治体

	都道府県	市区町村	待機児童数			利用定員 増加数	申込児童数			利用定員数増減数 - 申込者数増減数	R3.4 待機児童率
			R3.4	R2.4	減少数		R3.4	R2.4	増減数		
1	埼玉県	さいたま市	11	387	▲ 376	3,409	27,354	26,286	1,068	2,341	0.04%
2	岡山県	岡山市	31	259	▲ 228	847	18,897	18,741	156	691	0.16%
3	兵庫県	明石市	149	365	▲ 216	1,044	8,451	8,265	186	858	1.76%
4	千葉県	船橋市	12	197	▲ 185	143	13,248	13,405	▲ 157	300	0.09%
5	兵庫県	西宮市	182	345	▲ 163	443	9,309	8,904	405	38	1.96%
6	東京都	江戸川区	49	203	▲ 154	223	14,491	14,506	▲ 15	238	0.34%
7	沖縄県	南風原町	40	194	▲ 154	180	2,121	2,126	▲ 5	185	1.89%
8	鹿児島県	鹿児島市	82	216	▲ 134	75	13,718	13,911	▲ 193	268	0.60%
9	福岡県	福津市	16	137	▲ 121	220	1,749	1,644	105	115	0.91%
10	兵庫県	尼崎市	118	236	▲ 118	356	9,380	9,138	242	114	1.26%

2. 待機児童数の増加数が大きい上位10地方自治体

	都道府県	市区町村	待機児童数			利用定員 増加数	申込児童数			利用定員数増減数 - 申込者数増減数	R3.4 待機児童率
			R3.4	R2.4	増加数		R3.4	R2.4	増減数		
1	千葉県	君津市	85	11	74	2	1,290	1,196	94	▲ 92	6.59%
2	愛知県	岡崎市	72	0	72	5	7,318	7,631	▲ 313	318	0.98%
3	千葉県	印西市	76	20	56	100	2,836	2,426	410	▲ 310	2.68%
4	福島県	須賀川市	29	0	29	60	1,842	1,758	84	▲ 24	1.57%
5	千葉県	木更津市	90	62	28	45	2,272	2,218	54	▲ 9	3.96%
6	宮城県	亶理町	25	5	20	0	642	639	3	▲ 3	3.89%
7	千葉県	八千代市	48	31	17	38	3,451	3,329	122	▲ 84	1.39%
8	神奈川県	海老名市	38	24	14	113	2,639	2,504	135	▲ 22	1.44%
9	福岡県	宇美町	40	26	14	▲ 90	858	824	34	▲ 124	4.66%
10	奈良県	平群町	13	0	13	0	339	299	40	▲ 40	3.83%

※待機児童率＝待機児童数／申込者数